

令和7年度第2回恵那市総合教育会議会議録

日 時 令和8年1月26日(月) 午前11時00分～

場 所 恵那市役所 西庁舎 4A会議室

会議次第 1. あいさつ(市長・教育長)

2. 議題

(1) 学校給食の考え方について

(2) 小学校のプール授業について

(3) 令和8年度の主な事業(案)について

3. 報告事項

教育職員の業務量管理・健康確保措置に関する

「恵那市教職員の働き方改革プラン2026」の策定について

出席構成員：恵那市長

教育長

教育委員

小坂 喬峰

岡田 庄二

西尾 修欣

小栗 秀子

樋田 東洋

村松 訓子

まちづくり企画部長

鷹見 健司

まちづくり企画部次長兼

企画課長

松田 泰明

事務局：

副教育長

工藤 博也

教育委員会事務局長

鈴木 幸宣

教育委員会事務局次長兼

学校教育課長

丸山 頼彦

教育委員会事務局次長兼

社会教育課長

柄澤 史枝

教育総務課長

瀬瀬 千尋

教育総務課係長

志津 博光

開 会 (午前11時00分)

教育総務課長

皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから令和7年度第2回総合教育会議を開会いたします。

本日は教育総務課の瀬瀬が司会進行を進めさせていただきますので、よろしくお願いたします。それでは着座にて失礼します。

この総合教育会議につきましては、市長と教育委員会が教育に関する施策等に対し、協議や意見交換を行いながら、その方向性を共有する会議となり、毎年2回ほど開催させていただいております。第1回目は8月20日に開催し、主な議題として、恵那市教育大綱の策定について協議をさせていただき、当日の意見等を踏まえながら、現在策定を進めております。

本日は小坂市長のほか、市長部局から鷹見まちづくり企画部長、松田企画部次長兼企画課長にも出席をいただき、議題について協議、意見交換を行いたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、本日の総合教育会議は恵那市総合教育会議設置要綱第5条に基づき会議を公開し、第6条に基づき議事録を作成、公表していきますので、よろしくお願いいたします。これより、次第に沿って進めさせていただきます。

1 あいさつ（市長・教育長）

教育総務課長

初めに、小坂市長よりごあいさつを申し上げます。

市長 改めまして、皆さん、おはようございます。

本日は第2回目となりました総合教育会議でございます。大変お寒い中、そして足元が少し悪い中でございますけれども、お集まりいただきましてありがとうございます。

昨年の第1回目以降、岩村では「佐藤一斎学びのひろば」がオープンいたしましたし、中央図書館岩村分館もオープンすることができました。広い意味で非常に多くの施設で、学びに関する取組ができたので本当にありがたく思っております。

また、皆様方には恵那南中学校をはじめ市内のいろいろな教育関係の業務に関しまして、ご支援とご理解をいただきまして本当にありがとうございます。

今日は給食とプールについての議題でございます。給食については、今年度の補正予算で国からお金がいくらかきたものですから、その分で今年度の1月以降の給食費を無償化します。来年度以降も国は無償化を行う方向ということで、そのまま無料でいけるのではないかと思ったら、ここに来て急に選挙で暫定予算という話が出てきたものですから、その辺りで少しどうなるのかという見通しも含めて、事務局の方からご説明を申し上げますけれども、なんとかご父兄の負担にならないような方向に持っていけると良いと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、プールの方は、既に実績がある程度出ていますので、後ほど詳しく説明があると思っておりますけれども、やはりプロの方に教えてもらう、インストラクターに教えてもらうプールは非常に楽しかったという数字も出ているようですので、ぜひそんなところを子供たちのために実現できるといいと思っております。

私は東野の人間なのですけれども、白坂という学校から一番遠い部類の人間でした。小学校のときは、遠すぎて夏休みに学校のプールへほとんど行けなかったです。そうするとどうなるかというと、泳げないわけです。やはり泳げるようになる、子供のうちに付けられるだけの技術は付けられると、本当はいいのではないかと思っていますので、その辺りもご意見をいただけたらと思います。余談ですけれども、一つだけ話のネタに申し上げると、日本経済新聞がだいたい年明けに新しい世代のことについていろいろ書いてあるのですが、今年はアルファ世代のことについて書いてありました。アルファ世代というのは、大体2010年、今から15年前に生まれた子供たちですから、今でいうと中学生よりも下の子供たち、若い子供たちのことをアルファ世代と言うそうでございます。この世代はAIが身近にあって、そして医療に関しても、例えばバイオテクノロジーみたいなもので遺伝子組換えといったようなものがあって、人類が寿命とか自分自身の生存をコントロールできるようになる初めての世代と言われているようで、この数字を見ますとアルファ世代の平均寿命は、男性が91歳、女性が97歳です。およそ半数のアルファ世代の子供たちは、100歳を超えて生きていく世代になるそうでございます。昭和36年に国民年金の制度ができましたが、その当時の平均寿命は、男性が56歳、女性が70歳でした。そのときに、その前提のもとで国民年金の制度がつくられたわけですが、今、100歳に近付いている中、年金をどうするのかということが政治の中で議論されている話です。これともう一つ引っかけたのが、あらゆる人が言っているという話でいい言葉があって、「学びというのは人生にとって最も贅沢な遊び」というものです。例えば人生が100年とか110年という時代になって、定年がまだ60歳や70歳で、再任用があっても70歳から80歳には、自由な時間ができてきて、好きに暮らせるようになったときに何を求めてくるかといったら、実は「学び」というのが一番贅沢な時間だということです。学べることがすごく幸せなことなのだとすることを意味しているわけでございます。食うに困らずに、日常の生活に困らなかつたら、これから最も大切に人生の豊かさのために必要なことというのは、やはり「学び」だということが何となく皆さん気付いていらっしゃるのではないかというふうに思ったので、今日は少しそんな話を申し上げました。恵那市としては「学ぶ」というのも非常に大切な要素として、市民の皆さんが一生を通じて学ぶことができると。幸せが実感できると。そんなところも目指しています。そういう意味では学校教育を含めて、生涯学習というのも一つの大切なキーワードだということを思っていますし、そういった取組もこれからも進めていけたらと思っています。今日も短い間ですけれども、活発なご意見を賜りますようどうぞよろしくお願いたします。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、岡田教育長からごあいさつを申し上げます。

教育長

今日は、市長さんの方からこのような機会を設けていただき本当にありがとうございます。市長さんの最初のお話の中にもありましたけれども、「佐藤一斎

学びのひろば」や中央図書館岩村分館、恵那南中学校、それから中学校の空調設備等も含めて、学ぶ環境が年々良くなって、充実してきているということでございます。私も何年間か教育委員会に勤めさせていただいて、市長さんだけではなくて、市の職員の方みんなが教育に関わってくださって、真剣に考えていただいている中で、今があるということを思っています。まず、そのことに感謝を申し上げたいと思っています。

私たちは市長さんとできる限りお話をしながら方向をいつも共有しているつもりではありますが、今日は教育委員さんにもご参加いただきまして、市長さんと直接お話ができる貴重な会でございますので、有意義な会にしたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

2 議題

(1) 学校給食の考え方について

教育総務課長

それでは、議題に入ります。本日は議題が3件、報告事項が1件あります。1議題あたり事務局からの説明も含め、10分から15分程度で進めていきたいと思っております。3番の報告事項まで終わりましたら、市長さんから全体を通したコメントをいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは1つ目の議題である学校給食の考え方について、事務局から説明させていただきます。

教育委員会事務局長

(1) 学校給食の考え方について説明。

教育総務課長

事務局からの説明を終わりましたので、ここから委員さん各位からご質問、ご意見等、ご発言をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

西尾委員

国が給食費をみましようというような話を昨年の暮れぐらいから耳にするようになり、それは結構なことだということを素朴に思っておりました。説明にもありましたけれども、交付金をもらうという行政的な手続きのことは我々はよく分かりませんが、ただ給食費が無償になるということしかイメージとしては湧かないのですが、手続上の問題はともかく、親さんの負担が減るのであれば、それに越したことはないと思っております。今回の選挙に関わって4月から本当に国がそういう制度を設けてくれるのかということとは分からない状況ではありますが、恵那市としては、ぜひともこれまで同様に、あるいはこれまで以上の手厚い施策をしていただけると親さん、そして給食を召し上がる子供たちにとっても良いことになると思っております。ぜひともそういったことでご検討願えればと思っております。

小栗委員

今年度、小学校6年生の親子行事で給食試食会をすることができたのですが、1食300円以下でこれだけいろいろ食べられるのだとみんなすごく驚いていたので、本当に恵那市の努力はすごいということを感じました。子供が「今日は学校行きたくない」と言いながらも、家で給食の献立表を見て「この給食が出

るなら今日頑張っていこう」ということをよく言うので、給食センターの方や献立を考えてくださる方も子供が喜びそうなものを週に何回か入れてくださるので、本当にありがたいと親としては感じています。ありがとうございます。

樋田委員 地産地消ということで食育と経済循環という話があったわけですが、子供たちへの影響というか、教育の点からいうと食育の部分が大きいと思うわけです。恵那で取れたものや関係の深いものを実際に食べていくということを、栄養教諭の先生を中心として学校でも指導をなさっているのではないかと考えて、とても大事なことだと思います。コスト面でいうと、恵那市産のものを使った方が安くなるのか、高くなるのか。おそらく高くなるのではないかとすることも思っていて、その辺のバランスをどんなふうにとっていくかということも、先生方も含めてみんなで理解しながら地産地消を進めていかないと長続きしませんし、発展もしないかと思しますので、さらにそういう考え方で給食の地産地消を進めていただけたらありがたいと思います。

村松委員 私も食育という観点から栄養だけを学ぶのではなくて、やっぱり感謝の気持ちで「命をいただきます」ということや、安全や衛生、時間に気を配って運んでくださる人、献立を考えてくださる栄養士さん、給食を作ってくださいの人、配膳してくれる人などに対しても感謝の気持ちを込めて、それで生徒たちは何ができるかという、できるだけ残さないということだと思います。食べられる量を自分で考えて、感謝の気持ちを込めて廃棄分をなくすということがSDGsにもつながり、生徒が一番身近に取り組めることだと思います。樋田委員がおっしゃったように食育は大切だと思うので、常に先生方も、栄養教諭の先生も心がけて、総合的な学習や家庭科、生活の時間などのときに、こういった地産地消を学ぶ機会を増やしていただけたら良いと思います。

教育総務課長

ありがとうございました。そのほかはよろしいですか。
それでは、続いて2つ目の議題に入りたいと思います。

(2) 小学校のプール授業について

教育総務課長

小学校のプール授業について、事務局から説明させていただきます。

教育委員会事務局次長兼学校教育課長

(2) 小学校のプール授業について説明。

教育総務課長

説明が終わりましたので、ここからは教育委員の皆様からご質問、ご意見等のご発言をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

小栗委員 実施方法で年間5回の授業計画と書いてあるのですが、これは1学年5回ということですか。

教育委員会事務局次長兼学校教育課長

1学年になります。

西尾委員 アクトスさんで指導をしていただくということで、長島小学校の子供たちが羨

ましいというようなことを聞いたこともあります。そういうことができる状況であれば、ぜひ推進していけると良いと思います。市内で民間はアクトスさんのみですが、市営のB&Gや上矢作プールがありますので、使えるところは大きい使ってあげれば良いと思います。ただ、自分が消防団に所属していた頃の話ですけれども、学校のプールというのは防火水槽も兼ねていると聞いたことがあります。そういった防災面ということも考えると、今すぐ民間あるいはほかの公共プールに頼って学校のプールは必要ないのかということも思います。ただ、先ほどの資料にありましたように、学校プールを使える間は引き続き使用すること、状況によっては外部の施設をお願いをするという方向性はいいと思います。もう一つ大きな理由は先生方の負担軽減です。毎年全国で1回や2回はプールの水を出しっぱなしだったというようなニュースを聞くことがあります。やはりそれは、先生方の負担になっているからだと思いますので、そういった方向が取れるものならば良いのではないかと思います。

樋田委員 民間の力を利用しながら、より専門的な指導をしていくということはとても大事だと思いますし、これからもそういう方向が広がっていくといいと思います。先生方や子供たちの受け止めもこれを見させていただくと、良いということで、もろ手を挙げてという気持ちになります。

ただ、私が学校教育に多少携わった経験から言いますと、スイミングスクールが小さな田舎の町の中でもかなり普及してしまっていて、子供の個人の水泳の泳力差というのは結構大きいです。そうすると、学校体育の中での水泳指導というのは、学習指導要領のステップの中でいろんな配慮をしながらやっていくようになっていますが、水泳の泳ぎ方の指導だけではなくて、その辺のところの個人差にどういうふうに対応していくかということが学校の教員には極めて高いものが求められるわけです。ただ泳げるようにして子供が喜んでいるところで隠れていくものが、もしかすると、そこで落ちていくものがあるといけないということを思うのです。やはり、そのところを学校の先生方はもちろん、我々もそういうことを比較しながら、それで泳ぎ方そのものに対する指導はインストラクターの先生方は実技の面も含めて、学校の先生をはるかに凌ぐものを持っていらっしゃるのでそれを上手に生かしながら連携していく。資料を見ますと、連携にも問題がないという意識が先生方の中にもあると思うのですけれども、やはりその中身を常に見ていかないといけないと思います。今まさに、これが始まろうとしているスタートの段階だと思うので、その辺を確認しながらやっていけると良いと思いました。

村松委員 先ほどの市長さんのお話にあったように、私たちの頃は夏休みといえば当たり前のように町内子供会などで、炎天下でも毎日のようにプールに通っていました。しかし今は、熱中症対策や天候による警報の多さ、さらに職員不足などの影響で、なかなか授業回数を確保できないということは、本当に時代が大きく変わってきたのだと感じています。水泳の授業を通じて、技術面はもちろんですが、やはり安全面の指導もしてほしいと思います。「水は怖いもの」ということで、水泳の授業の最後に着衣水泳をやっていて、いつものように水着を着

た状態のように泳げないという経験をしていたと思います。水難事故は毎年増えていて、子供たちはプール以外でも川や海へ行く機会が多いので、安全面の指導をしていただきたいと思います。技術面の指導は、インストラクターの方などにお任せしても、安全面の指導は消防署の職員の方などに来ていただいて、小・中学校で実施していただけると良いと思います。

小栗委員 アクトスさんに教えていただける学校もあれば、学校のプールで授業をされる学校もあって、娘が通っている学校では指導ができる親さんに声をかけて、何回か授業を教えていただきました。先生は何でもできるというふうに見られがちですが、水泳が苦手な方もみえるので、アクトスさんだけで賄えない場合は泳ぎが得意で指導もできるような親さんに声をかけて、指導に参加していただけると水泳の質も上がるのではないかと思います。

教育総務課長

そのほかはよろしいでしょうか。

それでは、続いて3つ目の議題に入りたいと思います。

(3) 令和8年度の主な事業（案）について

これは令和8年度に設置しております主な事業の案でございますけれども、教育委員の皆様にも共有の意味も踏まえて説明をさせていただきたいと思います。それでは、令和8年度の主な事業（案）について事務局から説明させていただきます。

教育委員会事務局長

(3) 令和8年度の主な事業（案）について説明。

教育総務課長

それでは、次年度の主な事業の考え方等につきまして委員の皆様からご質問、ご意見等がございましたらご発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

西尾委員 「佐藤一斎學びのひろば」は、先ほどの市長さんと教育長さんのあいさつの中にも出ましたけれども、良い施設ができました。指定管理先のNPO法人いわむら一斎塾の鈴木理事長以下、非常に一生懸命取り組んでくださっていると思いますし、また、クラウドファンディングで500万円近く集まったという話も聞いております。ただ、入場料だけであの施設を今後賄っていけるのかどうかということが、若干不安なところもあります。お金になるような使い方は、学習施設という捉え方にはあまりふさわしくないかもしれませんが、もし入場料だけでは賄えないとすれば、経費を賄えるぐらいの何かほかの手だても考える必要があるのではないかと思います。「佐藤一斎學びのひろば」とは全く無関係だけど、会議室だけを使いたいというようなこともあろうかと思っておりますので、そういったことで末長く継続できる施設であり続けるためにも、現実的な話もどこかで取り上げていく必要があるのではないかと思います。

小栗委員 この前、主人と子供を連れて「佐藤一斎學びのひろば」へ行ってきたのですが、子供のにはもう少しかみ砕いて説明がないと分かりづらいということを書いて

いました。あと、体験できるものが少ないので、例えばA Iの佐藤一斎さんの機械を自転車を漕いで動かす仕組みにして、発電しながら映像を見るようなものにしたたり、書物がガラスケースに入っていて中が見られないのでそれをデジタル化して、見たいという方にデジタル販売をしたりすることも良いと思いました。また、恵那の郷土品と一緒に置いて「岩村テラス」のような形で、人を呼べる工夫も必要ではないかと思いました。子供が「下田歌子さんとのコラボ展示などもいいのではないか」ということを言っていたので、一緒に行って、子供と主人にも3つぐらいつつ意見を言ってもらうように課題を与えました。子供は柔軟な発想で、学校として子供たちを呼んで見学してもらい、子供からの意見を聞いて何か役に立てられるとさらによい施設になっていくのではないかと感じました。

村松委員 今回の意見に付け加えですけど、企画展示についてはこれからもずっと工夫が必要ではないかと思います。地元の偉人のパネルが並んでいて、興味深く見ていたのですが、そういうものに関わって地元の小・中学生が絵画展をしたり、偉人について調べたことを展示したりするなど、子供たちを巻き込んだ展示の工夫があると、その親さんも見学に来たりして、どんどん広がっていくような気がします。ですので、いろいろな展示の催しを工夫してみてもどうかと思います。良い案を思いついたときは、また提案したいと思います。

樋田委員 教育・発達支援センターを核とした学びの支援ということなのですが、これまでもこのことについては相当力を入れてこられたのではないかとこのように思っています。令和8年度の主な事業案ということで、「学びの支援の充実を図る」とあります。なかなかこれという決定的なアイデアというのは難しいと思うのですが、来年度、特にここを充実させていきたいというものがあれば、教えていただけるとありがたいです。

教育長 ありがとうございます。まず、教育・発達相談室「あおば」で言いますと、検査も非常に多くやっているのですが、年々時間を増やしたり、人を増やしたりということで、少しずつ対応しているところですが、来年度は特別支援に関わる教育委員会の中での指導者というポストを作って人を配置しようということです。人事のことなので、必ずそうなるかというのはまだこれからですけど、今その方向で努力をしています。人的には主幹クラスの配置を考えていて、学校でいうと教頭クラスですけど、指導者にもなるし実践者でもあるということです。こども園も含めて支援の必要な子供たちがすごく増えてきているので、現場の先生たちもその子にどうしたらいいのか分からないのですごく負担を感じるということもあるので、そういった面で一人置くのですが、その人を中心にして教育委員会の中で特に割愛で来ている職員は、特別支援等を学びながら指導者を増やしていきたいと思います。また、教育研究所から先生方に配る「授業づくりKnow-Howハンドブック」という冊子があるのですが、今年は指導案の中身などをやっていたのですが、来年度からは複数年で特別支援関係のことで研究ができないかということもやろうとしていますので、また、お力添えやアイデアがあれば教えていただければと思っています。

ます。

教育総務課長

そのほかよろしいでしょうか。それでは議題は以上となりますが、ここまでについて、まちづくり企画部の方からコメントがありましたらお願いします。

まちづくり企画部長

これまで事務局から説明がありましたけれども、私の方からは少し数字をご紹介させていただきます。令和6年度の決算になります。本市の一般会計における歳出の決算総額が、約327億1,000万円の支出をさせていただきました。そのうち教育費ですけれども、決算総額327億1,000万円における割合は17.2%で、額としては56億4,000万円を使わせていただいたということです。この金額からも分かるように、小坂市政4つの基本施策がありますけれども、「学ぶ」について大きく予算を入れているというところが、この数字からもよく見えるのではないかと、市長部局としては思っております。鈴木事務局長から令和8年度の教育委員会各課の主要事業案の説明がありましたけれども、これにつきまして教育委員の皆様からご意見をいただきました。まだ額が決定しているわけではないのですが、今詰めている最中でございます。これを3月議会に予算案として提案していくところでございまして、市議会議員の方々には私たちを含めて、この事業について丁寧に説明をしていきたいと思っておりますので、教育委員の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

教育総務課長

ありがとうございました。

3. 報告事項

教育職員の業務量管理・健康確保措置に関する「恵那市教職員の働き方改革プラン2026」の策定について

教育総務課長

次は報告事項に入ります。

報告事項として、教育職員の業務量管理・健康確保措置に関する「恵那市教職員の働き方改革プラン2026」の策定について、事務局から説明させていただきます。

教育委員会事務局次長兼学校教育課長

教育職員の業務量管理・健康確保措置に関する「恵那市教職員の働き方改革プラン2026」の策定について説明。

教育総務課長

報告事項は以上となりますが、この件に関しまして、委員の皆様からはよろしいでしょうか。

樋田委員 働き方改革は、もっと推進していかないといけないし、そういうふうになると良いと思います。ただ、時間数が少なくなっていくとか、目に見える形で結果を出していかないと、求められるわけですが、働き方改革はそんなに単純にはいかなくて、どんどん改革が進んでいくのだけれど、片方

では何かが欠落していくとか、今まであったものが薄くなっていくというようなことがあるのは本来ではないと思います。あまりそういうことを言うと、今度はまた働き方改革推進のブレーキになっていくので、これは非常にデリケートで難しいことだと思います。一つお伺いしたいのは、これをどんどん進めていくという大号令を教育委員会としてかけていくのだけれども、その中で懸念されることはどんなふうに考えていくのかということです。単純にはいかないと思いますので、特に児童生徒の教育の質に関わるようなことで、そういうものはあるのかなのかというあたりですけど、どうでしょうか。

教育長 ありがとうございます。まず、この制度ですけれども、今まで教員調整額という教員には時間外勤務のお金が出ないので、一律に4%出ているのですけれども、国は時間をかけて10%にまで引き上げるといっています。実際には2026年1月から段階的に引き上げられます。引き上げられる分、管理もさらにしっかりしてということもあると思うのですけれども、最初に働き方改革という言葉が出てきてから、ここ数年は少しトーンが変わってきています。働き方改革でも教師のやりがいを大事にしなければいけないという方向に来ているので、時間だけではなくて、やりがいという方向も考えていかないといけないと思っています。弊害は、授業が終わってからいろんな人と相談ができる時間ができるわけですが、みんな早く帰ってしまうため、そこができにくくなる。やはりそれが一番の弊害だと思っていますし、一番大きいかと思っています。特に、恵那市は若い職員が多く、学校規模が小さいので、職員集団の規模も小さくなり、いろんな先生に相談できるわけではありません。そういうところが心配なので、その辺のところはしっかりと考えていきたいと思っています。それから4月、5月が忙しくても、7月、8月は時間外が少し短くなることを考えると、年間を通してという考え方も一つあると思いますので、そこも含めて考えていきたいと思っています。その中でいいシステムがないのかということで、来年度できるかどうかまだ分からないですけど、授業時間を例えば5分短縮して、その生まれた時間を教材研究に充てることのできるような仕組みになってくると、恵那西中学校をその特例校のようなもので、今、文部科学省に相談していて、そういうところからも教育課程の組み方をどうするかということも含めて、研究も進めていきたいと思っています。でも、一番はやはりやりがいということと、相談相手ができない先生たちが出てくることの質の低下というのは心配だと思っています。

樋田委員 分かりました。学校はチームで教育をしないといけないということが、どこかにあるわけですけれども、教育長さんがおっしゃったように、だんだん一人一人に任されることもそういう時間になってしまって、みんなで作っていたのが、それぞれで「個業化」しているということも言われています。会議も少ないし、ほとんどこれで認めてくださるようになっていく。それは現場の先生方も実感していらっしゃる。若い先生方は初めて体験する1年目、2年目、3年目、それが当たり前になってしまうと、ベテランの先生方とはまた全然違う模様を見ているのではないかとということも心配されます。資料に書いてあるように、

学校への提出物、調査、コンクール等の要請の見直しというのは、結構あるのですよね。本来の授業をやることプラスこれをやっつけていかないといけないという、教員にとって負担感はかなりあります。いろんな団体がコンクールなどを行うので、何とか子供が出てくれると参加者が増えるので一緒にというふうにもいろいろお誘いがあります。それが積もり積もって結構大きく溜まっているのが今の学校ではないかとあるので、この教育委員会事務局の業務見直しに書いてあるところを、形として学校現場に示していただくと少し元気が出るのではないかと思います。

教育総務課長

ありがとうございました。そのほか、ここまでの全体を通して委員さんの方からご意見等ございましたらお願いします。

その他の方で、もしほかに何かあればお受けしたいと思いますがいかがでしょうか。

西尾委員

せっかくの機会ですので、少し時間をいただきます。何かといいますと、教育委員を代表して、市長さんにぜひお礼を申し上げたいと思い、その時間をいただきます。4月に恵那南中学校が開校いたします。それに先だって、先日、学校統合準備室の計らいで、市議会議員の皆さんと我々教育委員で新しい校舎の見学会が行われ参加してきました。非常にすばらしい校舎が出来上がっておりまして、校舎のみならずその周りの環境整備もきれいに行われておりました。さらには、アクセス道路も立派なものが出来ておりまして、重ね重ねではありますが、恵那南地区の中学校の統合に関しまして、市長さんの英断に感謝を申し上げます。また、市議会においても、多くの議員さん方がご賛同くださり、大きな推進力になってまいりました。その議員さん方にも感謝を申し上げます。さらには平成26年に恵那南地区中学校あり方検討委員会が設置されまして、それから11年。準備もありますからさらに年数は長いわけですけれども、この中学校統合に向けて実務を担っていただいた事務局では、大勢の職員の皆さんに関わっていただいたと思います。その職員の皆さん方の労をねぎらいながら、感謝を申し上げなければいけないということでお時間をいただきました。本当に皆さんのご努力によって恵那南中学校が開校できるということをありがたく思っております。本当にご苦労様でした。ありがとうございました。

教育総務課長

ありがとうございました。

それでは市長から全体を通したコメントをいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

市長

改めまして、今日は活発なご意見をいただきましてありがとうございました。まず、給食の話ですけれども、私自身は給食の3億円くらいの年間でのマーケットというのは、恵那市の中の経済活動の一つのケースモデルとして非常にいいケースだと思っております。何とか地産地消を進めていける方向で持っていきたいと思っております。例えば東京の子供たちが食べる給食では、おじいちゃ

んやおばあちゃんが作った野菜を食べられないです。都会ではそもそも誰も作っている人がいません。そういうことを思うと、都会ではなくて恵那だからこぞできる地元で採れたもしくは地元の水で、地元のおじいちゃんやおばあちゃんが作ったものを食することの大切さは、先ほどの食育の話もありましたけど、それを含めて非常に大切だと思っていますので、何とかこれを広めていきたいと思えます。

一つ面白かったというか、いいなと思ったのは、上矢作の石川農園さんが「KOKOKOバウムクーヘン」というお店をやってみえますけど、今年そのバウムクーヘンが給食に出ました。子供たちがそれを食べて、「めちやくちやうまかった」と、家に帰ってお母さんに言ったら、お母さんがそんなうまいバウムクーヘンが恵那にあるのかと思ってわざわざ買いに行かれたそうです。それはある意味、いい意味での循環ではないですけど、地元を知るいい機会になったというふうに思っています。やはり美味しいもので質の高いものというのは、これからも求められていくので、作り手はそのことで努力をして、今度はそれを食べていただく子供たちが大きく育って、俺はあれを食べて大きくなったのだというふうに思っていただけのような、そんな取組にしていけるとうれしいなと思えます。

それから、プールの授業の話もいろいろご意見をいただきましてありがとうございました。体力の話や安全面の話、それから泳げるだけの技術を付けることは大切なことです。やはりアクトスさんのようなプロにお願いして、アクトスさんのプールに行くのもいいし、アクトスさんのスタッフに学校のプールへ来ていただくのもいいと思えます。まずは楽しいこと。私はプールがすごく楽しくなかったの、インストラクターやすてきな先生に教えてもらって泳ぐのが楽しい、それで何か記録を出したいと思ってもらえる子供たちができるような、質の高い授業が受けられるといいのではないかと思います。また皆さんのいろんなご意見がありましたら、できることはやらせていただこうと思っています。

それから、「佐藤一斎學びのひろば」の話もいただきました。本当にありがとうございました。恐らくあの施設に人がわんさか来るとというのは、もともと施設の性格上難しいのですが、ある程度の人が来てくれるというのが大事なのではないかと思います。施設を見ていただくと分かるのですが、幾つかの会社のご支援をいただきながら作って、例えばこの3月にはJRさんがさわやかウォーキングで、「佐藤一斎學びのひろば」を朝の目的地にしてくれて、名古屋の方から人を引っ張っていただけるといふようなことも聞いています。私たちとしては、最初から爆発的に人が来ていふふうには思っていないで、運営しながら改善を進めていくということで、期待値以上のサービスや情報、体験が提供できないかということは、担当の方が考えているのではないかと思います。学びの施設ですけど、ある意味観光施設でもあるので、そういう意味ではお客さんのニーズをきちんと把握するために、先ほどもお話がありましたが、アンケートや話を聞きながら改善するなど、そういうことを積み重ねて広く認

知されていくといいのではないかというふうに思っています。

それから、働き方改革の話で私の雑ばくな感想ですけど、働き方改革は、今の現場の先生のことでも大事なのですが、恐らくこれから先生の人材等が不足してくる中で、どうやってこの人材を確保するかという意味での働き方改革と、もう一つは一番子供たちにとって近い大人なのですが、その子供たちが先生という職業を選んでもらえないというのは結構大きな問題で、やはりそれは先生方が笑顔で輝いているように見えるということが大事だろうと思います。だから、これからAIができた、コンピューターができた、学びも個別化して最適化してくるという中で、先生にどうやって働いてもらおうと輝いて子供たちにとってあこがれの先生になるのかというのは、結構大事な視点だと思っています。そういう意味でこの働き方改革も含めて、例えばAIや機械に任せるなど、そういったことはどんどんやっていきたいですし、先生方にとって働きやすく、子供と接する時間が取れる、そんなこともできればうれしいなと思います。

あと、ポーランドとの取組の中で、もうすぐ版画コンクールの入賞者が決まるのですが、それが決まると、いよいよポーランドへの切符が配られるということも決まっています。3月になると昨年のお阪・関西万博のポーランドパビリオンで使われていた外壁の一部が、恵那市に寄贈いただけることになって、恵那北中学校と市役所のロビーに設置します。除幕式もやるのですが、そこにはポーランド本国からのお客様と、日本に住んでいらっしゃる全権大使のミレフスキ大使と岐阜県知事と、もしかしたら衆議院議員の古屋先生にも来ていただいて盛大に開催する予定となっていますし、ポーランドデーとしてもやろうと思っています。子供たちにとってもめったにない経験ができる機会になると思いますので、そういったところも参加していただけるととてもうれしいなと思います。

それから、最後に西尾委員から恵那南中学校のお話をいただきました。ありがとうございました。私というよりも教育委員会等含めて、これまでかかわってきたみんなが丁寧に、そして少しずつ積み重ねてここまで来られたのだと思いますし、そこには教育委員の皆さん方も含めて後押しがあったからこそだと思います。今回スタートということになりますけど、これから恵那南中学校がいい学校になってきたと言ってもらえるように、学校の先生も含めて取り組んでいけたらと思います。次は、長島小学校でございまして、引き続きいい学校ができるように頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

教育総務課長

ありがとうございました。

最後に教育長の挨拶で終了したいと思います。よろしく願いいたします。

教育長

まず、市長さん本当にありがとうございました。なかなか市長さんと直接お話しする機会をつくるのが難しいので、今日はたくさん盛り込んで、皆さんの話したいことをたくさんお伝えさせていただきました。少し時間がオーバーして

しまい申し訳ありませんでした。また来年度以降も盛りだくさんで開催できればと思っていますので、ぜひよろしくお願いします。今日は本当にありがとうございました。

教育総務課長

ありがとうございました。

それでは、これもちまして令和7年度第2回総合教育会議を終了いたします。皆様お疲れ様でした。